



すべては歯から始まった

私達の体のなかで「歯」は小さな存在ですが、歯はその動物の情報を驚くほどたくさん教えてくれます。

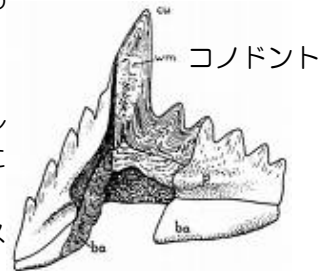
かつて太古の海であった5億年から2億5千万年前の地球上のすべての地層から『コノドント』と呼ばれる小さい殻状の石灰化物が発見されたのは今から約二百年前。それが動物なのか植物なのか鉱物なのか長いあいだ謎でした。それは、偶然に博物館の地下に眠る石板化石に埋もれたヤツメウナギのような生物の化石から歯であることがわかったのです。

コノドントが歯であることがわかったことで生物の進化の謎が一気に解け始めたのです。そもそも動物の骨や歯の成分であるヒドロキシアパタイトが、動物の身を守るために造られたのかエサを食べるために生じたものなのかがわかりませんでした。コノドントがエサを食べるためにできたのだと教えてくれました。

生きるための食べる行動が、皮膚の一部を歯に変えてしまったのです。こうして最初は口のなかだけにあった歯は、進化とともに頭部や体の一部にまで見られるようになります。

このように歯は、新たな生活様式をみせるだけでなく、新たな器官を作る方法の起源をも明らかにしてくれました。皮膚が進化に従い歯を魚の鱗に変え、さらに鳥の羽に変え、そして哺乳類の毛と乳房にまで昇華させたのです。それはまるで、同じ材料で新たな製品が造られるプラスチック工場のように歯を変化させたのです。

皮膚が歯を造る過程を出現させたことが、進化の始まりとも言えます。



コノドント

小さな歯に万歳

(元開)